

日程：8月5日（火）

参加：6生協65名（大人55名、小人10名）
東都生協13名、東京南部生協4名、パルシステム東京12名、全労済東京都本部9名、
東京ほくと医療生協5名、東京保健生協 22名
事務局 3名（秋山、荒井、川延）

今年度のピースアクション in ヒロシマは、昨年同様現地集合で受付を行い、虹のひろばと被爆者の方との交流を中心に6生協65名の参加がありました。各生協ではその他に日本生協連のプログラムに参加したり、独自でフィールドワークを行い、平和祈念式典にも参列しました。今年の広島はこの時期何十年ぶりという雨になりましたが、全国から集まった仲間たちがそれぞれの平和への思いを共有できた場となりました。

虹のひろばではリレーメッセージによりそれぞれの年代の平和と核廃絶への思いが語られました。後半は各生協、団体のブースでの展示や体験・参加コーナーを見学しました。

夕方からの「被爆者との交流」ではお二人の証言をお聞きし、夕食を摂りながら各生協の交流も行いました。



虹のひろば

《虹のステージ》オープニングは、「和☆ROCK」による和太鼓の演奏。若者たちによる軽快で力強い響きが弾け、躍動感にみちた演奏でした。続いて、松井市長から絶対悪である核兵器の一日も早い廃絶と平和首長会議加盟国を増やし世界と連携し国連にも働きかけていく決意が示され、主催者からは継承の重みを受け止め、署名活動などNPTに向けてさらに運動を進め、日本政府がリーダーシップをとれるよう働きかけたいとの、あいさつがありました。その後被爆者・組合員・NPO・大学生・小中生がつなぐリレーメッセージが披露されました。

リレーメッセージ

広島県原爆被爆者団体協議会
事務局長 大越和郎さん



核兵器も原発も戦争もない世界をめざしていきたい。

広島中央保健生協理事
片岡路子さん



広島が好き。母として、活動している者として平和な暮らしを守りたい

NPO法人「I PRAY」

創作劇を通して、再生と未来への希望を訴えかけました。



《みんなのひろば》

安田女子大学書道学科の皆さん



戦争を知らない世代にできることは何か。書道の文字を通して平和への思いを伝えたい。



書道パフォーマンスで完成した今年の大書

安田女子大学書道学科の皆さんによる大書パフォーマンスで始まり、各ブースでさまざまな展示や発表がありました。パネル展、2020年ビジョンコーナー、つながろうCO・OPアクションコーナーや歌、書道での参加コーナーなどで、思いを同じくする仲間たちとつながることができました。

フィナーレは被爆四世の少女の平和への誓いの言葉とともに虹のひろば合唱団による歌で閉幕しました。子どもから大人まで世代を超えた歌声と平和への祈りが会場を包みこみました。

子ども碑めぐりガイドの子どもたち



子どもによる碑めぐりガイドを行った。被爆者からお話を聞ける最後の世代として伝える使命を感じている。



被爆証言

広島医療生協 原爆被爆者の会
綿崎直子さん 瀧本清也さん



今年の参加者はお子さんも多く、特に祖父母の方との参加も目立ち、幅広い年齢層の方たちとともにお二人の被爆者の方のお話を伺うことができました。綿崎さんは10歳で被爆し、家の下敷きになって助け出された様子やその後妹さんを亡くされたことなどご家族のことも含めて、当時を生々しく語って下さいました。瀧本さんは陸軍幼年学校在学中の15歳での8月初めから被爆までの日々の様子と、原爆投下後に入った広島市内の様子を詳細に伝えて下さいました。お二人のお話から、戦争の残酷さ、二世も蝕む放射能の恐ろしさ、そして核兵器は絶対になくしてほしいという強い思いが伝わりました。



被爆証言をお聴きして

話すことがだんだん難しくなってきたことを実感。本や遺品を残すことはできるが感情こもった話が聞けなくなることに心配が残る。(40代女性)

被爆体験者のお話をなかなか聞く機会がなく、すごく貴重なお話を聞くことができました。率直に悲しいと思った。戦争はダメだ。誰も幸せになれない。今はすごく平和だと思う。今日伺った話をもっと若い人に伝えるべきだし世界に広めて核をなくすべきだと思った。(20代女性)

今も被爆の苦しみに耐えていらっしゃる方も多のに、まだ世界中に核が沢山あるのに怒りを覚えます。(60代女性)

一番心に残ったのは、火がとてももえていて人の皮がただれていたということです。それを見た人もとてもざんこくに思っただろうと感じました。(10代女性)

すごく悲しい出来事だというのはすぐわかりましたが、話を聞いて、広島だけの問題ではなく、日本の全体の問題だと思います。ぼくたちはひばくしゃから直接話を聞ける最後の年代だと思うので、ぼくたちにできることは全力でやろうと思いました。(10代男性)



お二人を囲んでの写真より

戦争は殺人だ。殺人は犯罪だ。戦争を決断した、命令した人間、組織の責任は重大だ。戦争で犠牲になるのは若者、立場の弱い人たちです。(50代女性)

実際に被爆者の方が被爆体験をお話して下さい、イラストと一緒に見せて下さることで、その時の情景や感情を生々しく想像することが出来ました。文献や写真を見るだけでも、その悲惨さはものすごいものだと思いますが、体験者の話を聞くと本当に心が揺さぶられる思いがしました。(30代女性)

交流会にて 各生協参加者より一言

東京保健生協
被爆者の方たちの当時のお話が力になる。ずっと語り継いでもらいたい。

全労済 東京都本部
これからも平和の活動を続け、一人でも多くの人に伝えていきたい。

東京南部生協
70代になって初めて訪れた。この先孫たちに伝えていかなくてはと思う。

パルシステム 東京
怖くて見たくなかったがきちんと伝えていかないとと思った。

東都生協
被爆した母が亡くなり、話を聞いておけばよかったと思う。次の世代につないでいく使命を感じた。

東京ほくと 医療生協
リアルなお話が聞けた。参加してとてもよかった。

参加者アンケートより

・孫と参加しました。このような機会を得られて感謝の気持ちでいっぱいです。原爆の恐ろしさ、平和の尊さを留守番している娘や家族にしっかり話したいと思いました。
・広島在住の若い方が真剣に「平和」について考えておられる事に本当に感心し、語り継がねばならない使命を強く感じた1日でした。

・子ども、若者、母親という方々の参加が多いと感じ、未来を生きる私たち若い世代の参加が多いことに希望を感じました。
・虹のひろばで沢山の平和活動をしている団体に出会えて、広島の平和を願う事に全国からこんなにも多くの方が参加していると知り、自分も協力してみんなの仲間に入りたいと感じました。